

平成29年度第1回  
 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会  
 議事録

日 時	平成29年11月8日(水)			開 会 午後 2時00分 閉 会 午後 4時00分
場 所	市長公室	出席者数	委員定数12名中 出席者11名	
出席者	委 員	鏡会長、昼間副会長、阿由葉委員、金子委員、齋木委員、 関根委員、田村委員、根岸委員、星委員、森田委員、吉田委員		
	事 務 局	【事務局職員】 島田部長、水口副部長、鯉沼課長、荒田副課長、甲佐主査、高野		
配付資料	次第 資料1 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会条例 資料2 富士見市まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会委員名簿(案) 資料3 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定める数値目標について 資料4 数値目標に関連する参考データ 資料5 富士見市キラリと輝く創生総合戦略に定めるKPIについて 資料6 総合戦略 進捗確認シート			
公開・ 非公開	公開(傍聴者なし)			

## 会 議 事 項

- 1 開会 総合政策部副部長
- 2 市長あいさつ 浅井副市长
- 3 委員紹介
- 4 会長及び副会長の選出 互選により、会長に鏡委員、副会長に昼間委員を選出
- 5 会長・副会長あいさつ 鏡会長、昼間副会長
- 6 諮問 浅井副市长から鏡会長へ諮問書を手交

### 7 議事

#### (1) 総合戦略審議会について

委嘱期間、諮問内容、委員に依頼する事項について事務局から説明

#### 質疑応答

会 長：総合戦略の検証について諮問された。総合戦略に定められた数値目標やK P I を検証し、着実に進んでいるかについて意見を頂きたい。また、平成30年度・31年度の予算への反映や平成33年度からの基本構想への反映も想定されているため、重い責任があると感じている。

委 員：年間どの程度のペースで審議会を実施するのか。

事務局：今年度は平成28年度実績の審議をお願いし、1回の予定。来年度は、平成29年度実績と今後の反映などについても審議頂きたいため、2回の予定。

会 長：事業の検証となると、前期・後期の2回くらいになるのが通例と思う。

#### (2) 総合戦略に定める数値目標などについて

資料3・4により事務局より説明

#### 質疑応答

委 員：総合戦略そのものは人口政策だと理解している。しかし、なぜ人口を増やさなければならないのかを市民が理解していないと思う。人口減少に伴い税収が減になると何が悪いのか。最悪のシナリオを見せたうえでの策定がいいと思うが、そのシナリオの分析はされているのか。また、税収や人口をどれだけ伸ばさなければいけないのか、その設定された目標を達成することで最終的に人口や税収がどの程度増えるのかをどう分析しているのか。

事務局：総合戦略は、人口減少、少子高齢化、地域雇用の増加にどう対応するかの観点

で策定し、さらに交流人口を増やし市のPRなどを進め人口増に繋げていく考え。税収推移の分析は詳細に行っていないが、人口減少は想定されている。平成72年にも成熟した都市として10万人規模のまちを目指し、職場・雇用の創出や子育て支援などに取り組み、総合力をあげていきたい。総合戦略で定めた目標や施策で、最終的に人口・税収・雇用者数・年齢構成などがどうなったかを確認する必要がある。指標の達成状況に併せて、長いスパンで、総合戦略がどういう結果をもたらしたのかを振り返りたい。

会 長：総合戦略は、市や市民が何ができるかを整理し、市が生き残るため何ができるかの視点で策定した。現在の総合計画は、まだ人口は伸びるものとして策定しており、今後は人口減少前提で施策を考えなければならない。富士見市だけ生き残るのはどうなのかという観点もあるが、市民が共有し、市がどう輝いていくかを考えることが必要である。人口が減少し税収減となればサービスの維持ができなくなり、市民と協働でやらなければならない領域も増えてくる。あるべき姿はまだ共有されていないが、変化の中でも現状を維持し、その中でキラリと輝くのは何かを考えている。人口減少などの委員ご指摘の将来のシナリオについては、次のステージで考えることとなる。

委 員：数値目標は半分以上が市民意識調査となっており、1つの方法として中間での調査などは出来ないか。同様にKPIの評価も難しい。評価の手法についてどのように考えているのか。

事務局：意識調査は総合計画策定に併せて実施する予定であり、現時点で意識調査の実施を早めることは考えていないが、収集できるデータのうち、人口、出生数、自然動態などで補足させて頂いている。今後、一定程度数値が出てくるものとする。総合戦略の目的は人口を減らさないことであり、雇用創出状況はどうか、昼夜間人口の状況など可能なデータは示していきたいと考えている。

委 員：数値目標には市民意識調査の項目が多い。人口などのデータはわかるが、評価にあたっては市民の満足度が重要であると考えている。それがとれないと評価することも難しい。補足する手法などはないのか。

副会長：数値が出ないのはやむを得ない。速報値などがあれば良いと思うが、資料5にある詳細な施策の取組内容・KPIについて議論したほうがリアルでよいと考える。資料3のデータを揃えるのが難しいのであれば、参考データで補足すればいいのではないか。

会 長：市民意識調査は大規模な調査であり予算もかかる。例えば、市政モニターや広報などで市民の意見を聞く機会があれば、それらを活用すれば良いのではないか。

### (3) 総合戦略の基本施策の検証について

資料5・6により事務局より説明

## 質疑応答

副会長：事業番号12の中の公共施設等総合管理計画について、取組実施にあたっては膨大な費用がかかるが、財政的な手当てはどのようにしていくのか。また、基金の積立はあるのかどうか。

事務局：現在公共施設マネジメントを進めており、20%程度の施設削減をしないと維持管理ができないと試算が出ている。基金は計画的に積むことが必要と考えているが、個別計画を策定する前後で対応する予定。

委員：事業番号11の空き家対策について、発生原因の多くは相続関係と思われる。現在、遺言信託の商品で、子どもがいない家庭に対し誰が相続するのかを先に決定し、銀行がその遺言執行をするものがヒットしている。空家対策にも有効ではないか。

委員：民間企業等との連携協力する事業は公表しにくいものなのか。総合戦略の取り組みについては、数多く実施している点など感心するが、結果や取組内容を市民がどこでキャッチするのが解決できていない。今の情報整理・発信のままでは、民間と協働したとしても人の目に触れないまま進んでしまう。

事業番号11の防犯対策などは結果が出ているのに、誰に対して周知したいのかが考えられていない。犯罪者に伝えれば効果的である。世田谷区では防犯取組を積極的に周知したことで犯罪率が低下した事例もある。

また、事業番号19の高等学校卒業程度試験合格支援給付金などは、この単語でないと市のホームページで検索できない。例えば、制度を利用したい者が「高校行きたい 補助金」などで検索したときにヒットさせないと意味がない。ウェブの情報整理と適切な検索ワード選び、結果のレポートを随時行うなど、情報の入り口を見直し・整理しないとKPIが達成されても宝の持ち腐れになってしまう。

事務局：情報発信の仕方については反省すべきと考えている。今日示した取組内容はホームページでも公表していく。今後ホームページの見直しに合わせ、検索しやすくする工夫や情報提供の仕方などは検討していきたい。

空き家は、これからも様々な物件が出てくると想定される。現在は危険な物件はないと認識しているが、庁内全体で連携し取り組みを進めていく。

会長：これまでの説明を聞くと、行政が中心に実施しているものが多い。行政の中だけで仕事していると効率的ではない。もっと民間とコラボレーションすればうまく進むのではないか。

委員：北九州市小倉の事例でリノベーションスクールがある。3日間の研修合宿で、実際の不動産の活用を具体的に検討し、家守会社も参加者から選出し事業化していく取り組みがある。また、草加や川越でのまちづくりキャンプなどの事例もある。創業支援のような、やりたければ補助を出すスタイルのみでなく、やりたい人を孤立化させず、仲間づくりを支援する取り組みを行うなど、行政がお金を出すところを検討すべきである。

委員：現在危険な空家物件はないと聞いているが、実際には10年以上放置された物件もあり防犯上不安だとの声も聞く。中間で、空家対策を考えるお知らせが地域に届けば、地域で対応することも考えられる。情報を届ける手段も、高齢者が4分の1となる時代なので、ホームページの充実だけでなく、広報や掲示板など紙ベースでの情報提供も隔々まで充実してもらいたい。

(4) 今後の予定について

次回以降の日程などについては事務局で連絡調整をする。

8 閉会 昼間副会長